

**平成24年度 事務事業評価シート**

<b>事業の概要</b>	事務事業名	老朽管の更新を進める事業						担当部	上下水道部		
	会計区分	水道事業会計			事業類型	施設整備系	担当課	水道課			
	事業期間	平成12年度以前 ~ 平成30年度以降			担当係	建設係					
	総合計画 分野別計画	主目的	5 都市基盤		24 水の供給		2 老朽管の更新を進める				
		副目的	24-3								
	予算区分	款	1	項	1	目	2	大	中		
	根拠法令・個別計画	第3期拡張第1次変更事業(平成21年3月31日認可)									
	実施・運営方法 ※費用合計に占める経費の内訳(割合)	直接実施・運営	92.4 %		委託	7.6 %		助成	0 %		
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	○老朽管の更新を進め、地震災害や自然漏水の被害抑制を図る。									
	内容 (手段)	<p>○耐用年数(40年)を経過した配水管を、漏水履歴等を考慮して優先順位を決め、平成21年度より毎年約15.0kmの布設替えを目標に計画的に更新する。          また、平成16年度よりφ200mm以上の管は耐震性ダクタイル管を採用し、平成22年度からはφ150mm以下の配水管についても、耐震性に優れたポリエチレン管を採用しております。          平成23年度は、平成22年度からの繰越事業と合わせ約20.6kmを建設係4人で分担し設計から工事発注、監督までを実施しました。</p> <p>※平成23年度直接経費の内訳: H22繰越事業費の内15節 0円、20節 265,858,950円          H23決算額の内15節 57,225,000円、20節 432,807,533円          合計 755,891,483円</p> <p>※その他財源の内訳 : 消化栓設置工事負担金 10,445,530円          下水道工事負担金 156,279,110円          区画整理工事負担金 123,687,600円          小牧市河川課工事負担金 1,961,920円          愛知県尾張建設事務所工事負担金 7,441,660円          一般会計出資金 100,000,000円          合計 399,815,820円</p>									
受益者負担	無										

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
<b>コスト</b>	<b>費用</b>	直接経費	千円	473,754	510,512	755,891	730,958	
		正職員	従事者数	人	3.52	1.91	1.80	1.80
			人件費	千円	18,722	10,159	9,574	9,574
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.48	0.75	0.75
			人件費	千円	0	1,215	1,899	1,899
		費用合計		千円	492,476	521,886	767,364	742,431
	対前年比		%		105.9	147.0	96.7	
<b>財源</b>	一般財源	千円	99,838	79,912	367,548	304,944		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	392,638	441,974	399,816	437,487		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	老朽管の更新を進める	km	目標		15	30	45
実績				11	25	46	
		目標					
		実績					
		目標					
		実績					
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	老朽管の更新率	%	目標	8	16	24	32
実績			6	13	24		
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	<p>事業の達成状況</p> <p>老朽管の更新延長は毎年約15km程度とすることを目標としています。 平成23年度は、平成24年度へ繰越した事業2.6kmを除き、前年度からの繰越事業量(約6.8km)を含め約20, 6kmを整備し目標を超える成果となった。</p>
	事業実施における課題等	<p>水道管の更新工事で、水道管を埋設する公共用地の形状・幅員によっては、更新工事における占用位置が確保できない状況がある。</p>
	事業を縮小・廃止したときの影響	<p>地震災害等による配水管の破損率が大きくなり、多くの市民が安定的な水供給を受けることができなくなる。</p>
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持
	判定理由	<p>老朽管の更新事業は、安全で安心なおいしい水が安定供給されるための継続的実施が必要である。</p>
	改善案等	<p>比較的口径の大きな水道管の非掘削更新工事等新しい技術開発情報を敏感に捉え、導入の可能性を検討していく。</p>

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。